

ユーザーが伝えるリアルなサムバイブレーションメソッド！

SUM VIBration

sunlures®

13G ボトムステイからの一巻きで砂モノ

晩秋の河川にもフグが多くアタリなんだがよくわからない。しかもシャッドテールとか大好きでケツだけなくなって新品1投目で交換とか微妙な空気が多発。そこで使うのがコレ。サムバイブ13G。75mmサイズで約13g！このバイブ、水平にボトムステイするのでラインテンション張っておけばリトリーブしなくても釣れた経験あり。だいたいステイしたあとのハンドル1回転目でバイトして来るケースが多い。さっさと釣ってラーメン行きたい人には是非使って欲しい1本なのであります。



サムバイブSSで制するシャローシーバス

バイブレーションと聞くと、遠投して広く探るイメージが強いのですが、時間も無い渡しの場合ワタシの場合、居るか居ないかわからないサカナは相手に出来ないのであります。バイブレーションプラグの強みの遠投性能はさておき、レンジコントロールのしやすさと波動のアピカが有効と思われる場所でのみ出番となるワケです。で、ナニが困るかと言うと近距離の馬の背から聞こえる補食音。手前なのか？奥側なのか？ミノードと奥に投げると背に刺さるし、トップに出るほど活性は高くない。シンペンだとアピカが弱い。そこで使うのがコレ。サムルアーズのサムバイブSS。75mmサイズで10g！シャローでシーバスがガバガバやっている時は是非使って欲しい1本なのであります。

カケアガリのゴツゴツゾーンは 15G

初冬、狙うのは平べったいアレ。ベイトに付いてきているのは青物だけではない。たまたまの青物ナブラが終わって完全に暗くなってからがチャンスタイムで、得てして夜中の方が釣れるサイズが平均的に良い。そこで使うのがコレ。サムバイブ15G。75mmサイズで約15g！一旦岸際まで追われたベイトはすぐに沖には戻らない。干潮タイムに立ち位置から20m以内のカケアガリ。ゴツゴツゾーンに潜むアレを根掛かり回避しつつ探る理想のウェイト。山田君に座布団を運んで来てもらいたい人には是非使って欲しい1本なのであります。

海バイブに無い、ゆっくり誘える比重がキモ

栈橋や漁港の常夜灯下。イワシやサヨリがベイトならミノーやリップレスがいいですが、コノシロ、アジ、シス、サッパなど

の体高のあるベイトの時はバイブがききます。しかし海用のバイブは遠投性を重視しがちで重いかつ、イワシをイミテーションしがちな為細く、同じレンジをスローに引くことが困難。表層ビヤー、中層ビー、か底からブワーと上がってきた時のリアクションバイトがメインになりがち。でも実際アジにしてもコノシロなど、特にシスは表層でフラフラ、同じレンジに定位する魚なのでビヤーとかブワーでは見切られることが多々あり、そういう時にサムバイブでレンジキープした若干スローなタダ巻き、もしくはバイブらしからぬトゥイッチやジャークがてきめんに効くことがあります。シーバス、チヌ、タチウオ



青物に見切られないサッパを演じるサムバイブ

特殊ですがブリのワチ(サッパ)パターン。俗にヒラマサよりもブリはベイトを偏食する傾向があり、マッチザベイトがブリ狙いの肝になることは誰しも認めるところだと思います。瀬戸内でメジャーなベイトパターンはカタク

チイワシ、タチウオ、コノシロ、これに合わせたルアーは数多くあります。変わり種はミミイカ、コウイカの赤ちゃんパターン。本題はサッパにブリが付いた時、既存のルアーが見切られる中で

どう釣るかということですが、他のベイトに比べて遊泳力の劣るワチは集団で一箇所に留まる傾向があり、襲われつつもその場を右往左往するだけでダッシュ力がありません。

なので従来のスピントールジグやコノシロサイズのミノードと明らかに違う魚種として無視されることがままある中、サムバイブのサイズ感とスピード感がバッチリハマることがわかりました。肝は底、中層、表層問わず、群れからはぐれ出たワチを演じるのがバイトに繋がってると思います。

干潟で甲殻系をイメージして多彩な誘い

干潟、河口などで特に4、5月の荒喰い期、もっと限定的に言うと潮干狩りのあとの夜、掘り返されて餌の多い状態の干潟にあらゆるベイトが集まり、シーバス、チヌ、メバルが水深50cmのところまで差し込みます。それを狙うポイントは決してベイトは小魚だけじゃないところ。エビやカニ、ハゼ、ゴカイなど多毛類、特に瀬戸内ではシャコがベイトになります。そこでスローにリフトアンドフォール(海底での立ち姿勢大事)、もしくはその水深でレンジキープできるバイブがめっちゃくちゃ効きます。表層でもいいし海底スレスレを砂煙を出しながら引いてくるのもいいです。バスでいうザリガニパターンですね。



広島県在住 TKさん